



柿崎区地域協議会だより



発行：柿崎区地域協議会 事務局：柿崎区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL025-536-2211

令和 4 年度 柿崎区における懸案事項の取り組み

地域協議会委員の任期は 4 年ですが、半分の 2 年が経過しました。前期に実施された自主的審議事項は、「柿崎区内における公共交通の在り方に関して」と「空き家活かそうプロジェクト」でした。内容については、「地域協議会だより」にて報告してきました。

後期は「空き家活かそうプロジェクト」を継続し、「みんなの保育園を考える会」を審議していきます。皆様の意見を取り入れながら検討を進めますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。また、地域協議会の業務として地域活動支援事業の審議・採択があります。この事業の今後については次項をご参照願います。

【地域活動支援事業の件】

令和 4 年度地域活動支援事業の採択が終了しました。採択された事業については、次ページをご参照ください。今まで行われてきた地域活動支援事業は、本年度で終了となります。令和 5 年度以降は、中川新市長が掲げる「地域自治推進プロジェクト」に移行されます。地域協議会には、

① 「元気事業の提案」や「意見書の提出」、「地域内での課題解決」に向け

た自主的審議事項による議論を進める。

② 「地域活性化の方向性の作成」に着手する、ことが求められています。

柿崎区地域協議会では自主的審議事項を進めてきましたが、今年度は「地域活性化の方向性の作成」についても議論し結論を出していくこととなります。ただし、本プロジェクトは令和 4 年度に制度確定、令和 5 年度に予算編成を行い、令和 6 年度より事業が実施となります。したがって令和 5 年度は空白の 1 年となることが予想されます。柿崎区地域協議会としては、地域活動支援事業を使って実施されてきた事業の継続を柿崎区総合事務所と協議していきます。

【広域最終処分場の件】

すでに新聞等で広報されていますが、上越地域における広域最終処分場候補地の選定が進んでいます。3 月 15 日に開催された柿崎区地域協議会に新潟県廃棄物対策課より担当者が来られ現状説明がありました。説明は以下です。

○上越地域の 5 か所に絞られていた候補地が柿崎地域の下中山地内、竹

鼻地内の 2 か所に絞り込まれた。今後、関係町内の協力をいただきながら、安心・安全で環境に配慮した施設整備の在り方や地域振興策の検討を行い、最終的な建設予定地の決定や合意形成に向け取り組んでいく。また、柿崎区内に資源循環推進課上越分室を設置する。

とのことでした。
4 月に事務所が設置され、事務所内に公益財団法人新潟県環境保全事業団上越オフィスも併設されました。9 年後の 2031 年供用開始に向け準備が進められます。

(柿崎区地域協議会会長

吉井一寛)



(新潟県提供)

令和 4 年度 地域活動支援事業 採択事業紹介(提案順)

No.	事業の名称	団体の名称
1	密蔵院周辺の整備および米山登山道古道整備事業	米山と密蔵院を結ぶふれあいパークの会
密蔵院周辺の整備と米山登山道古道の道標の修復、草刈り、倒木除去、植物名の札の設置や「古道を歩く会」の定期開催を実施し、県内外からより多くの観光客の来訪を期待する。 (補助額 195 千円)		
2	柿崎区農業の未来を考えるための地域ビジョン策定事業	柿崎農業の未来を考える会
令和元年度から令和 3 年度に、農業者、非農業者、農業者世帯の非農業者を対象に実施したアンケート調査の回答を分析し、その分析結果を基に意見交換会を行い、農業地域ビジョンの策定を目指す。 (補助額 396 千円)		
3	ドーム周辺花いっぱい事業	花うえの会
かきざきドーム周辺の花壇に花を植えてきれいにし、訪れる人たちの心のオアシスとなる施設にするとともに、他の花うえグループや中学生との交流を通じて、植栽技術を高める。 (補助額 256 千円)		
4	かきざき湖八重桜広場の八重桜植樹事業	ガンバ米山
かきざき湖八重桜広場の八重桜の植樹・手入れ作業を通じて、地域の方々との交流を図るとともに、柿崎川ダム・米山・尾神岳等を見渡せる新たな桜の観光名所を目指す。 (補助額 385 千円)		
5	坂田池園地桜植替え事業	柿崎観光協会
てんぐ巣病や高齢化した坂田池周辺園地の桜の植え替えを行い、観光資源としての坂田池の景観を維持し、観桜会などのイベントを開催することにより交流人口の拡大に寄与する。 (補助額 891 千円)		
6	第 5 回手しごと・手づくり柿崎・上越作品展	手しごと・手づくり柿崎・上越作品展実行委員会
柿崎区の寺院を会場に、ものづくりを趣味として制作している作品の作品展を開催することにより、市民同士の交流を深めるとともに、ものづくりへの制作意欲の向上を図る。 (補助額 440 千円)		
7	柿崎まちづくりカレンダー作製事業	NPO 法人柿崎まちづくり振興会
柿崎区における各行事の参加意欲を高めるとともに地域の一体感の醸成を図るため、行政や関係機関、町内会等の主な行事を記載したカレンダーを作製する。 (補助額 500 千円)		
8	猿毛城址登山道整備事業	NPO 法人柿崎まちづくり振興会
猿毛城址登山道、山頂、曲輪の伐木・刈り払いと標柱の建て替えを行い、多くの人から猿毛城址を認識してもらうとともに、地区の歴史・観光資源の再認識等の意識向上を図る。 (補助額 612 千円)		
9	黒川・黒岩ふれあい事業	16 ピース
黒川小学校の閉校を機に、黒川・黒岩地域に交流の場と活力を生み出すため、旧黒川小学校のフラワーロード等の整備、黒川・黒岩ふれあいまつり、米山古道の散策等を開催する。 (補助額 1,000 千円)		
10	柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」事業	柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」実行委員会
柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」を計画し開催することにより、下黒川地区の活性化を図るとともに、下黒川地区の市民の親睦と融和を図る。 (補助額 1,000 千円)		
補助額合計		5,675 千円

柿崎空き家活かそうプロジェクト中間報告

早いもので、「柿崎空き家活かそうプロジェクト」が発足してから1年半が経過しました。予定では今年の3月に結論を出そうと検討してきましたが、空き家を活用した地域の活性化については、さらに時間をかけて検討の必要があるとの判断になり、プロジェクトを2年間延長することになりました。そこで、これまでの検討期間を振り返り、課題を明らかにしてプロジェクトを推進していくことにしましたので、その結果を報告します。

これまでの検討期間を前期とした場合、前期はプロジェクトの委員がみんなで空き家に関する様々なことを学んだ期間だったと思います。検討会議の他に、市の担当者から行政の空き家対策を学んだり、県外からの移住者に柿崎についての率直な感想や移住の際のポイントを聴いたりしました。そのほか実際に空き家を活用している場所に行つて、地域への思いや活用するうえでの問題点など現場の生の声を聴いてきました。

こうした経過を経て、今後「柿崎空き家活かそうプロジェクト」として何を行うべきかを協議して、次の三点を課題として検討していくことになりました。

① 空き家を活用する前提として、空き家の

実態を把握することが重要と考えられる。そのために、柿崎地域の空き家に関する様々な情報入手するための取り組みについて検討する。

② 空き家の活用を促すための市の支援制度を知ってもらう方法を、さらに充実・強化する必要があると考えられる。そのため、現在、市が行っている広報紙やホームページ以外の新たな情報発信の方法を検討して市に提案する。

③ 空き家の活用を推し進めるには、空き家の情報を誰もが簡単に得ることができるようにする必要があると考えられる。そのために、様々な空き家の情報を提供

牧区高尾
《山のホムサ》



妙高市志
《古民家カフェ矢代》



し、空き家を活用する際に利用できる市の支援制度を紹介するなど、空き家の活用について様々な支援を行う拠点をつくりたいかを検討する。

この課題解決に向かってスタートした後期のプロジェクトは、前期で学んだ空き家に関することを活かしながら、具体的にどのようなことを行えば良いかを検討して、実行できることから積極的に取り組んでいきたいと思います。今後、皆さんから協力をお願いすることもあるかもしれませんので、その際はぜひご協力をお願いします。

(柿崎空き家活かそうプロジェクト
委員長 蓑輪和彦)

みんなの保育園を考える会

人口減少とともに進む児童の減少や施設の老朽化を問題視し、平成 30 年に「みんなの保育園を考える会」が地域協議会で設置されました。各地域での懇談会やアンケート調査を実施し情報収集した後、保育園の統合、小学校との併設等々、柿崎区の保育園にとって児童やご家族にとって、どのような形が望ましいのかを検討してきました。

今現在、上越市では「上越市保育園の再配置等に係る計画」が第 3 期まで進み、柿崎区は計画に入っていません。そこで、柿崎区地域協議会として、次の第 4 期の計画に柿崎区の保育園を検討してもらおうべく、みんなの保育園を考える会では、再度情報収集を進めています。各区内の保育園を視察し、施設の現状を知り、現利用者やこれから利用する保護者からの声を拾い、柿崎区の保育園にとってより良い形を模索していきます。地域の皆様からのご協力とご理解を今後ともよろしくお願いいたします。

(みんなの保育園を考える会

委員長 小山慶)



《なおえつ保育園を視察》
西本町

柿崎区地域協議会の主なうごき(令和 4 年 4 月～令和 4 年 6 月)

開催月日	実施項目	開催月日	実施項目
4月15日	保育課との打合せ ・みんなの保育園を考える会	5月24日	第3回地域協議会 ・地域活動支援事業プレゼンテーション開催
4月19日	第1回地域協議会 ・柿崎空き家活かそうプロジェクト中間報告	5月24日	第2回地域協議会だより編集委員会 ・第46号の編集
4月19日	第1回地域協議会だより編集委員会 ・第46号の掲載内容について	5月31日	第17回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議 ・空き家利活用の具体案の検討
4月25日	第3回みんなの保育園を考える会会議 ・委員会の今後の進め方について	6月4日	区内保育園、なおえつ保育園を視察 ・みんなの保育園を考える会
4月26日	第16回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議 ・空き家利活用の具体案の検討	6月7日	第4回地域協議会 ・地域活動支援事業の採択決定
5月10日	第2回地域協議会 ・令和4年度地域活動支援事業について	6月30日	第18回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議 ・空き家利活用の具体案の検討

【編集後記】

新型コロナウイルス感染症が相変わらず増減を繰り返し、なかなか落ち着きを見せません。地域協議会だよりが毎回このような文言で始まり少し申し訳なく、また疲れも感じています。そういう状況の中で今年度も数か月が経ち、地域活動支援事業も始まり既に活動を始めている団体もあると思います。それぞれ地域を盛り上げようと取り組んでおられることに敬意を表します。ただ、残念なことこの地域活動支援事業は今年が最後となります。市長は、この事業の趣旨とは違う活動があり役目が終わったのではと言われていますが、私は地域の活性化に繋がる活動が多いと感じていました。私見ですが、これまでの地域活動が継続できる方策を行政と共に検討します。

(編集委員長 中村誠)

編集委員長

中村 誠

編集委員

白井一夫

武田正教

箕輪明男

蓑輪和彦

吉井一寛

吉村 正